

「政治に関する意識調査」の10年

ー さいたま市民のライフ・スタイルと政治意識 ー

10-years of Public Opinion Research “Saitama Shimin Seiji Isiki Chosa” (2013～22)

ー Life-Style and Political Consciousness of citizens of Saitama City

松本 正生

Masao Matsumoto

はじめに

1. ライフ・スタイル

1-1. コミュニケーション・ツール

1-2. 情報行動

2. 政治意識

2-1. 政治満足度

2-2. 政治家信頼度

まとめにかえて

資料：調査票と回答結果(2022)

〈要旨〉

埼玉大学社会調査研究センターがアニュアルで実施してきた「さいたま市民の政治に関する意識調査」に関して、同一質問に対する経年結果を概観した。2013年から22年まで、10年間の推移において、主に、以下の二つの傾向を確認することができた。

第1、コミュニケーション・ツールおよび情報源デバイスに関するスマートフォン保有率の急増傾向は、若年層から高齢層まで、全年代共通であり、社会のあり様を大きく変えるに至ったこと。

第2、政治意識に関する定番の傾向であった「政治不満」と「政治家不信」の併存状況は、コロナ禍を境に低減しつつあること。わけでも、50代以上の中老年層に関して、それが該当すること。

A survey of results over time was conducted for the same questions in the political consciousness survey of citizens of Saitama City that has been annually conducted by the Saitama University Social Survey Research Center. The following two main trends could be confirmed in the 10-year transition from 2013 to 2022.

First, the rapid increase in ownership of smartphones as a communication tool and information source device was common across all age groups, from the young to the elderly, and has greatly changed the lifestyle of citizen.

Second, the co-existence of “political dissatisfaction” and “negative image of politicians”, which have been standard trends regarding political consciousness, has been decreasing since the COVID-19 pandemic. Above all, this applied to middle-aged and older people in their 50s and above.

はじめに

埼玉大学社会調査研究センターは、2022年7月～8月に「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」を実施した。調査対象は、さいたま市の10区の選挙人名簿から各区の有権者数に比例する形で抽出した1,000人、調査方法は郵送法を採用している。有効回答者数は581人(有効回収率58%)であった。回答を返送して下さった、さいたま市民のみなさまに、深く感謝申し上げる次第である(調査票と単純集計結果、および、属性別クロス集計表は後掲)。

埼玉大学社会調査研究センターでは、年1回の定例調査として、「さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査」を実施し続けてきた。同調査は、2013年に開始し22年には10回を数えるに至った。調査対象数、抽出方法、および実査方法については、同一の手法を採用している。10年にわたる調査の回収状況は[表1]の通りである(注1)。

調査の内容には、政治に関するいくつかの質問を継続的に採用するとともに、国内のトピックやさいたま市の課題など時宜に応じた質問を設定してきた。10回目の本年は、7月に参議院議員通常選挙が実施されたことから、選挙の投票行動や選挙制度への評価などについての質問を設定した。

また、ライフ・スタイルの実態やデモグラフィック指標については固定化している。有効回収率

が、2013年から2021年まで、一貫して6割台を保ち続けたことで、継続質問の結果に関する時系列的推移の客観性が担保されるという幸運にも恵まれてきた。ただし、今回(2022年)は、58%と初めて6割を下回ってしまった。

本小論では、継続的に採用してきた質問に対する回答結果に焦点を当て、10年目に相当する2022年の調査結果を新たに加えることで、市民のライフ・スタイルと政治意識の軌跡をトレースしたい。

1. ライフ・スタイル

1-1. コミュニケーション・ツール

・スマートフォン保有率

ライフ・スタイルに関する経年の推移の中では、コミュニケーションや情報源に関して、大きな変化が見受けられる。とりわけ、コミュニケーションのデバイスである「スマートフォンの保有率」に、急速な増加傾向が存在する。

[表2]を参照されたい。「スマートフォンの保有率」は、2013年の39%から毎年直線的に増加してきたが、2022年には88%と9割に迫るに至った。まさに「スマホの席卷過程」と形容できよう。

年齢別のブレイクダウンは、[表3]にまとめた。直近の2,3年の間の特徴として、60代以上の中高年層における急増は顕著であり、高齢層での増加が全体の保有率上昇に貢献していることが明らかとなる。

表1. さいたま市民「政治に関する意識調査」(郵送調査)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
調査時期	5月	5月	5月	8月	7月	8月	6月	8月	6月	7月
有効回答数	694	616	610	622	653	628	602	624	636	581
同回収率	69%	62%	61%	62%	65%	63%	60%	62%	64%	58%

表2. スマートフォン保有率

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全体	39	45	54	61	65	72	78	82	85	88

(%)

表3. スマートフォン保有率(年齢別)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
18~29歳	100	98	100	97	98	98	100
30代	94	98	95	99	97	99	97
40代	87	84	90	94	97	98	99
50代	67	74	83	89	94	94	98
60代	41	51	63	69	74	91	91
70代	19	29	36	44	69	69	76
80歳以上	4	8	14	26	32	25	47

(%)

2016年～22年の6年間を比較すると、60代の保有率が41%から91%に上昇し、ほぼ標準装備となったことを確認できる。加えて、70代は、19%（16年）から76%（22年）へ、80歳以上も4%（16年）から47%（22年）へと、驚異とも表現しうるような伸びを示している。

スマートフォンが全年代共通の必携アイテムとなることで、単なるデバイスやツールの変化を越え、人々のコミュニケーション・スタイルや情報行動、さらにはライフ・スタイルまで、社会のあり様がすっかり変わってしまった感がある。

・固定電話保有率

固定電話の保有率については、[表4]に示した。経年の推移は、2013年当時の9割近くから8割、7割へと、ゆるやかではあるものの減少傾向が続いている。

・種類別電話使用状況

次に、電話の種類別使用状況を確認してみよう。[表5]を参照されたい。2021年、22年と、「固定電話だけを使う」という固定オンリー派は6%に減少している。一方、「携帯電話だけを使う」携帯オンリー派の割合は、2013年の19%から21年、

22年には4割台へと倍増している。

「固定だけ」+「主に固定」=「固定メイン」、「携帯だけ」+「主に携帯」=「携帯メイン」に集計し直した[表6]をみると、「固定メイン」派-「携帯メイン」派間の比率の差は年々拡大し、「携帯メイン」派が支配的なシェアを占めるに至ったことがわかる。

[表4]の保有率と、[表5]に示した使用率との間に存在するギャップからは、固定電話とは「持っているが使わない」、言い換えるならば、「家にはあるが使用していない」という状況が示唆されよう。

・世帯状況

個々人の家庭環境については、変わりのない傾向が継続している。[表7]は、世帯の状況について、「一人住まいか家族との同居か」を聞いた結果を示している。「一人住まい」=約1割、「家族と同居」=8割～9割弱の関係に、ほとんど変化はみられない。

表4. 固定電話保有率

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
89	89	85	86	85	83	75	78	74	72

(%)

表5. 種類別電話使用状況

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
固定電話だけを使う	12	11	11	9	9	8	8	9	6	6
携帯電話だけを使う	19	20	21	24	26	28	37	34	42	40
両方使うが主に固定電話	22	23	19	17	14	13	9	12	9	12
両方使うが主に携帯電話	37	36	40	41	41	42	37	38	36	37
両方とも同じ程度使う	10	9	8	7	9	6	7	6	6	4

(%)

表6. 種類別電話使用状況（固定メイン=固定だけ+主に固定、携帯メイン=携帯だけ+主に携帯）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
固定メイン	34	34	30	26	23	21	17	21	15	18
携帯メイン	56	56	61	65	67	70	74	72	78	77

(%)

表7. 世帯状況

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
一人住まい	11	12	12	12	11	11	10	13	11
家族と同居	84	82	82	83	88	87	89	86	87

(%)

表 8. 住居形態

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
持ち家	78	75	77	77	76	78	75	76	78
賃貸	20	23	21	21	22	20	24	21	20

(%)

表 9. 社会の情報源（1つだけ）

	2014	2017	2018	2019	2020	2021	2022
テレビ	50	42	51	46	44	42	49
ラジオ	4	2	2	1	3	2	2
新聞	20	20	12	14	9	13	10
インターネット	15	20	33	31	36	31	31

(%)

・住居形態

住居の形態、すなわち、「住まいは、持ち家か賃貸か」質問の結果をまとめた [表 8] を参照されたい。こちらも、世帯状況と同様に、「持ち家」、「賃貸」、それぞれの割合に変化はみられない。「持ち家」が 8 割弱、「賃貸」がほぼ 2 割で一定している。生活実態＝ライフ・スタイルでも、コミュニケーションや情報源といったソフト面とは異なり、世帯の人数や住居の形態など、人々を取り囲むハード面の環境条件に関しては、2013 年～2022 年の 10 年間、変化のない安定した回答傾向を確認することができる。

表 10. 政治ニュースを見る頻度

テレビ					
	2016	2018	2020	2021	2022
ほぼ毎日	54	56	70	67	69
週に 1 回以上	25	22	16	18	15
あまり見ない	17	16	9	10	12
まったく見ない	3	4	4	4	4
わからない	0	1	1	1	0

(%)

新聞					
	2016	2018	2020	2021	2022
ほぼ毎日	26	29	33	30	33
週に 1 回以上	21	13	10	14	14
あまり見ない	27	24	17	17	18
まったく見ない	21	32	39	37	34
わからない	1	1	1	0	0

(%)

インターネット					
	2016	2018	2020	2021	2022
ほぼ毎日	22	31	47	41	45
週に 1 回以上	20	19	18	18	19
あまり見ない	23	23	13	17	16
まったく見ない	28	24	18	19	18
わからない	2	2	2	1	1

(%)

1-2. 情報行動

・社会の情報源

ここからは、社会の情報源に関して確認して行こう。[表 9] は、「社会についての情報を得る際に、最も利用しているもの」を聞いた結果である(注 2)。

「テレビ」の比率は 2020 年、21 年とやや減少し、今回(22 年)は 49%と以前の水準に回復している。一方、「インターネット」は、2014 年の 15%から年々大きく増加し、20 年には 36%と「テレビ」に迫る比率を占めるに至ったが、ここ 2 年は 31%で横ばい、ないし頭打ち傾向を示している。これに対して、「新聞」は減少傾向にあり、比率も 2014 年の 20%から、22 年には 10%に半減している。

・政治の情報源

次に、テレビ、新聞、インターネット、それぞれに関して、「普段、政治のニュースをどの程度見たり、読んだりするか」を聞いた結果を、[表 10] にまとめた。

三つのメディアへの接触度を比較すると、「ほぼ毎日」の割合はテレビが常に最も高く、2022 年は 69%を占めている。第二位については、20 年に、これまでの新聞からインターネットへの逆転が生じている。その後は、21 年、22 年と、インターネット>新聞の順位に変わりはない。テレビ=7 割、インターネット=4 割強、新聞=3 割という付置関係を確認することができる。

他方、「まったく見ない」に関しては、インターネットが 2 割弱、新聞が 3 割強で相応の比率を占めているのに対して、テレビはわずか 4%に止まっている。

経年の推移に注目すると、2018年から20年の間に、全てについて視聴の割合が増加している。コロナ禍の到来により、情報への関心が高まったことを示唆していよう。

「ほぼ毎日」の比率を年齢別にブレークダウンすると、年齢差の存在が明らかになる。[表 11]を参照されたい。

先ず、テレビについては、2018年から20年の間に全体の割合が56%から70%に増加したのは、18～29歳の+29ポイント(26%から55%へ)をはじめとして、30代の+17ポイント、40代の+16ポイントなど、若年層における視聴の急増が要因であることがわかる。

次に、新聞に関しては、中心的な購読層が70代

表 11. 政治ニュースを見る頻度（年齢別）

テレビ：ほぼ毎日					
	2016	2018	2020	2021	2022
18～29歳	32	26	55	40	40
30代	35	38	53	53	45
40代	48	49	65	59	57
50代	56	59	69	71	68
60代	69	73	78	88	88
70代	64	71	85	75	86
80歳以上	65	78	77	77	84
全体	54	56	70	67	69

(%)

新聞：ほぼ毎日					
	2016	2018	2020	2021	2022
18～29歳	3	6	8	-	11
30代	7	5	9	11	6
40代	13	17	23	14	17
50代	28	24	32	29	23
60代	41	47	43	45	45
70代	50	51	52	47	57
80歳以上	41	54	60	63	63
全体	26	29	33	30	33

(%)

インターネット：ほぼ毎日					
	2016	2018	2020	2021	2022
18～29歳	32	26	45	31	47
30代	30	32	49	51	43
40代	30	46	66	63	63
50代	19	34	62	51	54
60代	17	29	52	42	61
70代	11	20	31	21	27
80歳以上	4	8	7	7	4
全体	22	31	47	41	45

(%)

以上、あえて言えば60代以上に固定化していることが確認できる。高齢者専用メディアに特化したと解釈せざるを得ないだろう。

さらに、インターネットについては、2020年以降の視聴頻度からすると、アクセス層のコアが40代から60代の中年世代ないし実年世代になってきていることが確認できよう。「政治ニュース」という限定が、影響しているのだろうか。

ところで、メディアの視聴頻度の質問は、テレビ、新聞、インターネットの三つについて、それぞれ個別に聞いている。したがって、回答には、単一のメディアではなく、複数の、あるいはすべてのメディアを視聴している場合も含まれ得る。逆に言えば、数値の裏側には、「政治のニュース」を全く見ない、全く触れることのない人たちの存在が示唆されよう。

2. 政治意識

2-1. 政治満足度

ここからは、政治意識を取り上げたい。政治に対する満足度と政治家への信頼度についてみていこう。[表 12]を参照されたい。「現在の政治に対してどの程度満足しているか」を「大いに満足している」・「だいたい満足している」・「やや不満足である」・「大いに不満足である」の四択で聞いた結果である。表中の「満足」は「大いに満足している」+「だいたい満足している」を、「不満足」は「やや不満足である」+「大いに不満足である」の比率を示している。

表 12. 政治満足度

	2016	2018	2020	2021	2022
満足	23	20	18	18	25
不満足	69	71	76	71	65

(%)

「満足」対「不満足」は2016年を起点にすると、2割：7割で、不満が大多数を占めている。22年も、基本的な構図に変化はないものの、20年に76%に上昇した「不満足」の比率が65%へと減少し、「満足」が18%から25%に増加している。

年齢別の結果は、[表 13]にまとめた。20年から22年にかけての「不満足」比率の減少傾向は、すべての年代に共通している。減少の度合いも、18～29歳＝－11ポイント、30代＝－14ポイント、40代＝－5ポイント、50代＝－14ポイント、

表 13. 政治満足度（年齢別）

	2016		2018		2020		2021		2022	
	満足	不満足								
18～29歳	31	54	26	46	30	62	21	53	22	51
30代	24	66	15	71	16	78	11	72	26	64
40代	22	72	25	68	19	78	19	73	17	73
50代	15	79	17	78	11	83	13	79	26	69
60代	22	71	15	80	17	80	9	83	24	70
70代	27	67	18	79	17	79	20	73	25	66
80歳以上	24	61	35	62	23	61	46	46	39	49
全体	23	69	20	71	18	76	18	71	25	65

(%)

60代＝－10ポイント、70代＝13ポイント、80歳以上＝－12ポイントと、(40代を除けば)ほとんど差がない。

政治に対する不満の減少は、政治への関心度どのような影響をもたらすのか。さらには、コロナの渦中という社会状況が、どのように関連しているのだろうか。

2-2. 政治家信頼度

政治家への信頼度はどうだろうか。「日本の政治家(国会議員、地方議員、首長など)について、どんな印象を持っていますか」と聞き、「とても信頼できる」・「ある程度信頼できる」・「あまり信頼できない」・「全く信頼できない」の四択で回答を求めた結果である。[表 14]の数値は、「信頼できる」＝「とても信頼できる」＋「ある程度信頼できる」、 「信頼できない」＝「あまり信頼できない」＋「全く信頼できない」に相当する。

表 14. 政治家信頼度

	2016	2018	2020	2021	2022
信頼できる	28	23	19	24	28
信頼できない	67	72	76	70	65

(%)

表 15. 政治家信頼度（年齢別）

	2016		2018		2020		2021		2022	
	信頼できる	信頼できない								
18～29歳	14	75	15	74	15	80	22	67	25	73
30代	22	72	20	77	12	81	11	84	25	70
40代	26	70	19	74	22	72	21	72	16	78
50代	24	72	23	74	14	85	23	73	31	65
60代	31	64	23	74	20	78	24	70	34	58
70代	39	59	27	70	23	73	26	70	27	65
80歳以上	37	52	54	43	30	58	51	40	45	43
全体	28	67	23	72	19	76	24	70	28	65

(%)

2020年までは、年を経るたびに「信頼できる」が減少し、「信頼できない」が増加するという傾向が存在し、「信頼できない」比率は76%と大多数に達していた。ところが、21年からは、「信頼できる」が19%(20年)→24%(21年)に上昇し、「信頼できない」も76%(20年)→70%(21年)と減少に転じた。22年には、さらに、「信頼できる」は28%に増加、「信頼できない」は65%へと減少している。日本政治、ないし日本の政治文化の定番とも言い得た「政治家不信」にも、やや持ち直しの兆候が見受けられる。

年齢別の比率を、[表 15]で確認してみよう。20年から22年にかけての「信頼できない」比率の減少傾向については、50代が85%(20年)から65%(22年)に、60代も78%(20年)から58%(22年)へと、いずれも20ポイント減少したのを筆頭に、中高年層で顕著である。一方、18～29歳や40代などの若年層には大きな変化はみられない。

中高年における「政治家不信」の低下傾向は、内閣支持の構造が、安倍・菅時代の「若高－老低」型から岸田内閣の「若低－老高」型へとシフトしたことと、相応の関連を有していると推測できよう。岸田首相のクリーン・イメージ、あるいは、ハト派イメージゆえであろうか。

まとめにかえて

ここまで、埼玉大学社会調査研究センターがリアルタイムで実施した「さいたま市民の政治に関する意識調査」の2022年結果を、同一質問に対する経年の推移と比較しながら概観してきた。2013年から22年まで、10年間の推移に関しては、主に、以下の二つの傾向を確認することができた。

第1、コミュニケーション・ツールおよび情報源デバイスに関するスマートフォン保有率の急増は、若年層から高齢層まで、全年代共通の事象であり、社会のあり様を大きく変えるに至ったこと。

第2、政治意識に関する支配的な傾向でもあった「政治不満」と「政治家不信」の併存状況は、コロナ禍を境に低減しつつあること。わけても、50代以上の中高年層に関して、その傾向が該当すること。

これらの、同一方向への直線的傾向が、この先どのように推移して行くのか。次年度以降の調査結果に待ちたい(注3)。

(注)

- 1) [表16]は、さいたま市における有権者の年齢別構成と調査回答者の年齢別構成を比較したものである。
- 2) 社会の情報源質問は、表中の年度以外の調査でも採用している。しかしながら、他の年度は選択数を「2つまで」としており、比較基準を統一するため、「1つだけ」を採用した年度に限定した。
- 3) 毎年の実査の運用、および、結果の集計については、埼玉大学社会調査研究センターの菱山智香子さんの多大な貢献に依拠している。記して謝意に代えたい。

(引用文献)

松本 正生 (2021) 「ライフ・スタイルの変容と政治意識の軌跡 —『さいたま市民:政治に関する意識調査』(2013~2020) —」, 『政策と調査』第20号, 2021. 3

松本 正生 (2022) 「『さいたま市民の政治・選挙に関する意識調査』(2021) — ライフ・スタイルと政治意識 —」, 『政策と調査』第21号, 2022. 2

表 16. 有権者の年齢構成と調査回答者の年齢構成

	2013		2015		2017		2019		2021		2022	
	有権者	回答者										
18・19歳					2	2	2	1	2	2	2	2
20代	13	8	13	8	12	7	12	8	13	7	13	8
30代	18	17	17	14	15	14	15	14	15	12	15	12
40代	20	21	21	19	20	19	20	21	19	19	18	14
50代	15	16	15	16	15	16	16	18	17	20	18	20
60代	16	18	15	16	15	17	13	13	13	14	12	15
70代			12	17	12	16	13	19	13	17	13	20
80歳以上	18	19	7	8	7	8	8	5	9	9	9	8

※2013年は70歳以上

(%)

「政治に関する意識調査」2022年7月

埼玉大学社会調査研究センターでは、毎年、さいたま市の市民のみなさまを対象に調査を実施し、いまの政治や選挙などについて、ご意見をお聞きしています。調査の結果は、埼玉大学社会調査研究センターのホームページで公表するとともに、埼玉新聞などでも報道されております。

さいたま市内10区の選挙人名簿から、無作為に1,000人の方を抽出したところ、あなた様にご協力をいただくことになりました。ぜひ、ご意見をお聞かせください。回答いただいた内容は、統計的に処理して「〇〇に賛成△△%」といった形で分析しますので、お名前や具体的な回答内容が外部に出ることはありません。また、ご記入の調査票は裁断し、情報管理を徹底します。

この調査には、ご本人様にご回答ください。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認や集計を匿名で行うためのものです。お名前を書いていただく必要はありません。

誠に恐縮ですが、7月29日（金）までに、同封の封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ： 埼玉大学社会調査研究センター（担当：菱山=ひしやま）
月～金 午前9時から午後4時まで

TEL:048-858-3120

E-mail: ssro@gr.saitama-u.ac.jp

この下のQ1からお答えください

Q1. あなたは、今の生活に満足していますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 大いに満足している 6%
2. だいたい満足している 60%
3. やや不満足である 25%
4. 大いに不満足である 7%
5. わからない 1%

Q2. あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 大いに満足している 1%
2. だいたい満足している 24%
3. やや不満足である 42%
4. 大いに不満足である 23%
5. わからない 8%

Q3. あなたは、岸田内閣を支持しますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 支持する 8%
2. ある程度支持する 44%
3. あまり支持しない 26%
4. 支持しない 12%
5. わからない 9%

Q4. あなたは、大野元裕・埼玉県知事を支持しますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 支持する 12%
2. ある程度支持する 48%
3. あまり支持しない 15%
4. 支持しない 5%
5. わからない 19%

Q5. あなたは、清水勇人・さいたま市長を支持しますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 支持する 11%
2. ある程度支持する 43%
3. あまり支持しない 15%
4. 支持しない 9%
5. わからない 21%

次のページのQ6に進んでください

※参議院選挙についてお聞きします

Q6. あなたは、7月10日に実施された参議院議員選挙で投票しましたか。番号に○をつけてください。

1. 投票した (Q7に進んでください) 72%
2. 投票しなかった (Q10に進んでください) 28%

「1. 投票した」と回答した人への質問

Q7. 投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票 (または不在者投票) をしましたか。番号に○をつけてください。

1. 当日投票をした 62%
2. 期日前投票 (不在者投票) をした 38%

Q8. あなたは、どなたと投票に行きましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1人で 51%
2. 家族と 48%
3. その他 (具体的に:) 1%

Q9. あなたは、選挙区の立候補者の中で誰を選ぶか決める時、候補者の所属する政党を重視して投票しましたか。それとも候補者個人を重視して投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 政党を重視して 62%
2. 候補者個人を重視して 27%
3. どちらともいえない 10%
4. わからない 1%

「2. 投票しなかった」と回答した人への質問

Q10. あなたが投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

1. 仕事や旅行など、他の用事があったから 20%
2. 病気や体調が良くなかったから 21%
3. 投票所が遠かったから 5%
4. 面倒 (めんどう) だったから 13%
5. 選挙に関心がなかったから 29%
6. 誰を (どの政党) を選んでいいのかよくわからなかったから 32%
7. 自分一人が投票しても意味がないから 12%
8. その他 () 14%

Q11. あなたは、どういう状況ならば投票しようと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 投票所が近かったら 16%
2. 投票所までの無料バスなどが運行されたら 1%
3. 区内の投票所であればどこでも投票できたら 7%
4. 駅やショッピングセンターなどで投票できたら 13%
5. 期日前投票が早朝や午後8時以降もできたら 5%
6. 投票日の投票時間が延長されたら 1%
7. インターネットによる投票ができたなら 46%
8. 郵送による投票ができたなら 35%
9. その他 (具体的に) 12%
10. わからない 12%

次に右上の Q12 に進んでください

ここからは全員への質問です

Q12. 「選挙権」が認められるのは満 18 歳からです。18 歳という年齢で選挙権を持つのは早いと思いますか。それとも遅いと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 早い 31%
2. ちょうどいい 54%
3. 遅い 2%
4. わからない 14%

Q13. 一方、選挙に立候補できる「被選挙権」は、都道府県知事と参議院議員では 30 歳以上、それ以外では 25 歳以上となっています。あなたは、被選挙権についてどうするべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 選挙権と同じ 18 歳以上にすべきだ 6%
2. 引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない 25%
3. 今のままでよい 60%
4. わからない 9%

Q14. 日本の政治家（国会議員、地方議員、首長）を考えた時、あなたは、政治家についてどんな印象を持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とても信頼できると思う 1%
2. ある程度信頼できると思う 28%
3. あまり信頼できないと思う 52%
4. 全く信頼できないと思う 13%
5. わからない 6%

Q15. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 国会議員 19%
2. 官僚 39%
3. 首相 6%
4. 国民一人一人 7%
5. 大企業 7%
6. マスコミ 5%
7. わからない 15%

Q16. あなたは、家族と政治の話をすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. よくある 10%
2. ときどきある 43%
3. あまりない 24%
4. ほとんどない 21%

Q17. あなたは、テレビ、新聞、インターネットで、政治や社会のニュースをどの程度見たり読んだりしますか。それぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

A. テレビで政治や社会のニュースを見る

1. ほぼ毎日見ている 69%
2. 週に1回以上見ている 15%
3. あまり見ない 12%
4. まったく見ない 4%
5. わからない 0%

B. 新聞で政治や社会の記事を読む

1. ほぼ毎日読んでいる 33%
2. 週に1回以上読んでいる 14%
3. あまり読まない 18%
4. まったく読まない 34%
5. わからない 0%

C. インターネットで政治や社会のニュースを見る

1. ほぼ毎日見ている 45%
2. 週に1回以上見ている 19%
3. あまり見ない 16%
4. まったく見ない 18%
5. わからない 1%

次のページの F1 に進んでください



◆最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかおうかがいします。

F1. あなたは男性ですか、女性ですか。

1. 男性 45% 2. 女性 54% 3. 答えない 1%

F2. あなたのお年は満でいくつですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 10代 2% 5. 50代 20%
2. 20代 8% 6. 60代 15%
3. 30代 12% 7. 70代 20%
4. 40代 14% 8. 80歳以上 8%

F3. あなたが最後に在籍した(または現在在籍している)学校を1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 中学校(旧制高等小含む) 4%
2. 高校(旧制中学含む) 32%
3. 高専・短大・専修学校 23%
4. 大学(旧制高専含む) 38%
5. 大学院(修士・博士) 3%
6. わからない 0%

F4. あなたは、さいたま市に住んでどのくらいになりますか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1年未満 1%
2. 2～3年未満 4%
3. 4年～10年未満 12%
4. 10年～20年未満 14%
5. 20年以上 69%

F5. あなたは、社会についての情報を何から得ていますか。もっとも利用しているものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. テレビ 49%
2. ラジオ 2%
3. 新聞 10%
4. インターネット 31%
 [LINE・Twitter(ツイッター)なども含む]
5. 家族や友人からの話 1%
6. その他 1%

F6. あなたは、政治や社会のニュースを自分の携帯やタブレットで見る際、どのサイトをよく利用しますか。あてはまるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

1. Twitter 12%
2. LINE ニュース 22%
3. YouTube 内のニュース動画 8%
4. ニュースアプリ 58%
 (Yahoo!ニュース、スマートニュース、グノシーなど)
5. 新聞社の動画ニュースサイト 9%
 (各社のサイトや NewsVideo など)
6. テレビ局の動画ニュースサイト 9%
7. 動画サービス(Hulu、Gyao! など) 1%
8. その他() 9%

F7. あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。(携帯電話のみの方は「2.ない」に○を)

1. ある 72% 2. ない 28%

F8. あなたは現在、スマートフォンを持っていますか。

1. はい 88% 2. いいえ 11%

F9. 最後に、あなたは、ご自宅で電話を使う場合、次のどれに当てはまりますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 固定電話だけを使う 6%
2. 携帯電話だけを使う 40%
3. 両方使うが主に固定電話 12%
4. 両方使うが主に携帯電話 37%
5. 両方とも同じ程度使う 4%
6. 両方とも使わない 1%

ご協力ありがとうございます。

この回答用紙は、切手が貼られている同封の返信用封筒に入れ、7月29日(金)までに、ご返送ください。お早めにご投函いただければ幸いです。この調査について、ご意見やご要望があれば、下の余白にご記入ください。

2022年さいたま市民調査クロス集計表

性別・年代 × Q1 今の生活に満足しているか

	大いに満足している	だいたい満足している	やや不満足である	大いに不満足である	わからない
男性(260)	7%	59%	24%	8%	1%
女性(314)	5%	61%	27%	6%	1%
答えない(7)	14%	57%	-	14%	14%
18～29歳(55)	15%	56%	16%	13%	-
30代(69)	10%	61%	23%	4%	-
40代(83)	5%	54%	28%	10%	2%
50代(117)	5%	61%	29%	5%	-
60代(88)	2%	57%	33%	7%	-
70代(119)	5%	61%	23%	8%	3%
80歳以上(49)	2%	78%	18%	-	-
未回答(1)	-	-	-	100%	-
全体(581)	6%	60%	25%	7%	1%

性別・年代 × Q2 現在の政治に対してどの程度満足しているか

	大いに満足している	だいたい満足している	やや不満足である	大いに不満足である	わからない
男性(260)	1%	25%	40%	27%	6%
女性(314)	1%	23%	45%	20%	9%
答えない(7)	-	14%	14%	14%	57%
18～29歳(55)	2%	20%	35%	16%	27%
30代(69)	4%	22%	45%	19%	10%
40代(83)	-	17%	40%	34%	8%
50代(117)	1%	25%	45%	24%	5%
60代(88)	-	24%	49%	22%	5%
70代(119)	-	25%	41%	25%	5%
80歳以上(49)	-	39%	35%	14%	6%
未回答(1)	-	-	100%	-	-
全体(581)	1%	24%	42%	23%	8%

性別・年代 × Q3 岸田内閣を支持するか

	支持する	ある程度支持する	あまり支持しない	支持しない	わからない
男性(260)	8%	41%	27%	16%	7%
女性(314)	7%	47%	26%	9%	10%
答えない(7)	-	14%	-	14%	71%
18～29歳(55)	9%	25%	25%	15%	25%
30代(69)	4%	39%	36%	9%	12%
40代(83)	2%	40%	30%	14%	12%
50代(117)	8%	47%	22%	10%	13%
60代(88)	7%	53%	30%	9%	-
70代(119)	8%	47%	24%	16%	3%
80歳以上(49)	20%	45%	12%	12%	4%
未回答(1)	-	-	-	-	100%
全体(581)	8%	44%	26%	12%	9%

性別・年代 × Q4 大野元裕・埼玉県知事を支持するか

	支持する	ある程度支持する	あまり支持しない	支持しない	わからない
男性(260)	11%	46%	15%	7%	19%
女性(314)	12%	51%	15%	4%	17%
答えない(7)	14%	-	14%	-	71%
18～29歳(55)	13%	35%	9%	5%	36%
30代(69)	4%	36%	23%	7%	29%
40代(83)	4%	57%	16%	7%	16%
50代(117)	14%	51%	13%	4%	18%
60代(88)	7%	55%	18%	6%	14%
70代(119)	14%	51%	16%	3%	14%
80歳以上(49)	31%	43%	10%	2%	10%
未回答(1)	-	-	-	-	100%
全体(581)	12%	48%	15%	5%	19%

性別・年代 × Q5 清水勇人・さいたま市長を支持するか

	支持する	ある程度支持する	あまり支持しない	支持しない	わからない
男性(260)	12%	42%	17%	9%	20%
女性(314)	11%	44%	15%	9%	21%
答えない(7)	14%	14%	-	-	71%
18～29歳(55)	16%	33%	5%	5%	40%
30代(69)	3%	35%	17%	13%	32%
40代(83)	6%	52%	17%	7%	17%
50代(117)	11%	50%	12%	9%	18%
60代(88)	7%	45%	20%	6%	20%
70代(119)	13%	40%	22%	10%	13%
80歳以上(49)	31%	37%	6%	8%	14%
未回答(1)	-	-	-	-	100%
全体(581)	11%	43%	15%	9%	21%

性別・年代 × Q6 参議院議員選挙で投票したか

	投票した	投票しなかった
男性(260)	74%	26%
女性(314)	70%	30%
答えない(7)	71%	29%
18～29歳(55)	60%	40%
30代(69)	65%	35%
40代(83)	73%	27%
50代(117)	72%	28%
60代(88)	81%	19%
70代(119)	77%	23%
80歳以上(49)	63%	37%
未回答(1)	-	100%
全体(581)	72%	28%

性別・年代 × Q7 投票日当日に投票したか

	当日投票をした	期日前投票 (不在者投票) をした
男性(192)	63%	37%
女性(220)	61%	39%
答えない(5)	40%	60%
18～29歳(33)	64%	36%
30代(45)	56%	44%
40代(61)	51%	49%
50代(84)	68%	32%
60代(71)	65%	35%
70代(92)	63%	37%
80歳以上(31)	65%	35%
全体(417)	62%	38%

性別・年代 × Q8 誰と投票に行ったか

	1人で	家族と	その他
男性(192)	55%	45%	－
女性(220)	47%	52%	1%
答えない(5)	60%	40%	－
18～29歳(33)	45%	55%	－
30代(45)	44%	53%	2%
40代(61)	43%	56%	2%
50代(84)	52%	48%	－
60代(71)	49%	51%	－
70代(92)	57%	42%	－
80歳以上(31)	61%	35%	3%
全体(417)	51%	48%	1%

性別・年代 × Q9 政党を重視して投票したか、候補者個人を重視して投票したか

	政党を重視して	候補者個人を重視して	どちらともいえない	わからない
男性(192)	67%	23%	10%	－
女性(220)	59%	30%	10%	1%
答えない(5)	20%	20%	60%	－
18～29歳(33)	73%	15%	9%	3%
30代(45)	58%	24%	18%	－
40代(61)	56%	30%	15%	－
50代(84)	69%	24%	6%	1%
60代(71)	55%	32%	13%	－
70代(92)	67%	26%	7%	－
80歳以上(31)	55%	32%	10%	3%
全体(417)	62%	27%	10%	1%

性別・年代 × Q10 投票しなかったのはなぜか

	仕事や旅行など、他の用事があったから	病気や体調が良くなかったから	投票所が遠かったから	面倒(めんどう)だったから	選挙に関心がなかったから	誰を(どの政党)を選んでもいいのかわからなかったから	自分一人が投票しても意味がないから	その他
男性(68)	18%	16%	3%	18%	35%	31%	13%	9%
女性(94)	21%	24%	7%	11%	23%	33%	11%	17%
答えない(2)	-	-	-	-	50%	50%	-	50%
18～29歳(22)	23%	23%	9%	14%	32%	41%	14%	23%
30代(24)	38%	4%	-	29%	33%	33%	17%	4%
40代(22)	14%	5%	-	14%	50%	32%	9%	14%
50代(33)	39%	12%	-	12%	18%	30%	9%	18%
60代(17)	-	24%	6%	12%	29%	47%	12%	6%
70代(27)	7%	26%	11%	11%	30%	33%	15%	7%
80歳以上(18)	-	67%	17%	-	11%	11%	6%	22%
未回答(1)	-	-	-	-	-	-	-	100%
全体(164)	20%	21%	5%	13%	29%	32%	12%	14%

性別・年代 × Q11 どういう状況なら投票しようと思うか

	投票所が近かったら	投票所までの無料バスなどが運行されたら	区内の投票所であればどこでも投票できたなら	駅やショッピングセンターなどで投票できたなら	期日前投票が早朝や午後8時以降もできたなら	投票日の投票時間が延長されたら	インターネットによる投票ができれば	郵送による投票ができれば	その他	わからない
男性(68)	10%	-	6%	12%	6%	-	59%	24%	15%	13%
女性(94)	20%	2%	9%	15%	4%	1%	35%	45%	10%	12%
答えない(2)	-	-	-	-	-	-	100%	-	-	-
18～29歳(22)	14%	-	-	14%	5%	-	64%	9%	27%	14%
30代(24)	12%	-	4%	12%	8%	-	62%	42%	12%	8%
40代(22)	9%	-	5%	9%	5%	-	68%	41%	14%	9%
50代(33)	9%	-	6%	21%	12%	3%	52%	12%	15%	12%
60代(17)	6%	-	6%	6%	-	-	53%	53%	6%	12%
70代(27)	15%	-	22%	15%	-	-	15%	52%	4%	22%
80歳以上(18)	56%	11%	6%	11%	-	-	-	56%	-	6%
未回答(1)	-	-	-	-	-	-	100%	-	-	-
全体(164)	16%	1%	7%	13%	5%	1%	46%	35%	12%	12%

性別・年代 × Q12 選挙権が満18歳からは早いか

	早い	ちょうどいい	遅い	わからない
男性(260)	26%	60%	3%	12%
女性(314)	36%	49%	1%	14%
答えない(7)	-	29%	-	71%
18～29歳(55)	20%	65%	5%	9%
30代(69)	26%	65%	1%	7%
40代(83)	20%	54%	4%	22%
50代(117)	26%	57%	3%	15%
60代(88)	33%	53%	-	14%
70代(119)	44%	45%	1%	9%
80歳以上(49)	45%	35%	-	20%
未回答(1)	-	-	-	100%
全体(581)	31%	54%	2%	14%

性別・年代 × Q13 被選挙権の年齢は引き下げるべきか

	選挙権と同じ18歳以上にすべきだ	引き下げるべきだが、選挙権と同じ年齢まで引き下げる必要はない	今のままでよい	わからない
男性(260)	8%	26%	61%	6%
女性(314)	4%	25%	61%	10%
答えない(7)	-	43%	-	57%
18～29歳(55)	11%	35%	44%	11%
30代(69)	6%	41%	49%	4%
40代(83)	10%	27%	52%	12%
50代(117)	6%	22%	62%	9%
60代(88)	3%	24%	66%	7%
70代(119)	3%	22%	68%	8%
80歳以上(49)	4%	10%	73%	8%
未回答(1)	-	-	-	100%
全体(581)	6%	25%	60%	9%

性別・年代 × Q14 日本の政治家についてどんな印象か

	とても信頼できると思う	ある程度信頼できると思う	あまり信頼できないと思う	全く信頼できないと思う	わからない
男性(260)	1%	27%	50%	15%	7%
女性(314)	0%	29%	54%	11%	4%
答えない(7)	-	14%	43%	29%	14%
18～29歳(55)	2%	24%	53%	20%	2%
30代(69)	1%	23%	54%	16%	6%
40代(83)	-	16%	55%	23%	6%
50代(117)	1%	30%	56%	9%	3%
60代(88)	-	34%	48%	10%	6%
70代(119)	1%	26%	55%	9%	7%
80歳以上(49)	-	45%	37%	6%	10%
未回答(1)	-	-	100%	-	-
全体(581)	1%	28%	52%	13%	6%

性別・年代 × Q15 日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思うか

	国会議員	官僚	首相	国民 一人一人	大企業	マスコミ	わからない
男性(260)	15%	44%	7%	8%	7%	4%	13%
女性(314)	22%	35%	5%	6%	8%	5%	17%
答えない(7)	29%	14%	-	-	-	29%	29%
18～29歳(55)	25%	24%	-	18%	9%	11%	13%
30代(69)	16%	30%	4%	4%	16%	16%	13%
40代(83)	18%	41%	5%	7%	11%	6%	12%
50代(117)	17%	44%	9%	7%	3%	4%	15%
60代(88)	12%	44%	9%	6%	5%	-	22%
70代(119)	24%	36%	8%	7%	8%	2%	14%
80歳以上(49)	27%	49%	4%	2%	-	-	16%
未回答(1)	-	-	-	-	-	-	100%
全体(581)	19%	39%	6%	7%	7%	5%	15%

性別・年代 × Q16 家族と政治の話をすることがあるか

	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない
男性(260)	12%	42%	25%	21%
女性(314)	9%	45%	24%	21%
答えない(7)	14%	-	43%	43%
18～29歳(55)	15%	31%	27%	27%
30代(69)	1%	49%	25%	25%
40代(83)	11%	45%	20%	24%
50代(117)	10%	45%	20%	25%
60代(88)	10%	39%	28%	23%
70代(119)	13%	51%	24%	11%
80歳以上(49)	14%	31%	31%	20%
未回答(1)	-	-	100%	-
全体(581)	10%	43%	24%	21%

性別・年代 × Q17A テレビで政治や社会のニュースを見る

	ほぼ毎日見 ている	週に1回以 上見ている	あまり見な い	まったく見 ない	わからない
男性(260)	68%	13%	13%	5%	0%
女性(314)	70%	17%	11%	2%	0%
答えない(7)	43%	29%	29%	-	-
18～29歳(55)	40%	31%	24%	5%	-
30代(69)	45%	26%	20%	9%	-
40代(83)	57%	13%	18%	8%	2%
50代(117)	68%	19%	10%	3%	-
60代(88)	88%	6%	6%	1%	-
70代(119)	86%	9%	4%	-	-
80歳以上(49)	84%	8%	8%	-	-
未回答(1)	100%	-	-	-	-
全体(581)	69%	15%	12%	4%	0%

性別・年代 × Q17B 新聞で政治や社会の記事を読む

	ほぼ毎日読んでいる	週に1回以上読んでいます	あまり読まない	まったく読まない	わからない
男性(260)	41%	11%	17%	30%	0%
女性(314)	27%	17%	19%	36%	0%
答えない(7)	-	-	29%	71%	-
18～29歳(55)	11%	7%	16%	65%	-
30代(69)	6%	10%	16%	68%	-
40代(83)	17%	13%	18%	48%	1%
50代(117)	23%	20%	18%	39%	-
60代(88)	45%	14%	23%	17%	-
70代(119)	57%	15%	18%	6%	1%
80歳以上(49)	63%	12%	16%	8%	-
未回答(1)	-	-	-	100%	-
全体(581)	33%	14%	18%	34%	0%

性別・年代 × Q17C インターネットで政治や社会のニュースを見る

	ほぼ毎日見ている	週に1回以上見ている	あまり見ない	まったく見ない	わからない
男性(260)	54%	20%	13%	11%	1%
女性(314)	37%	19%	18%	24%	1%
答えない(7)	57%	-	43%	-	-
18～29歳(55)	47%	27%	20%	5%	-
30代(69)	43%	36%	14%	6%	-
40代(83)	63%	14%	13%	5%	2%
50代(117)	54%	22%	17%	7%	-
60代(88)	61%	18%	6%	12%	-
70代(119)	27%	16%	20%	34%	2%
80歳以上(49)	4%	-	22%	65%	4%
未回答(1)	100%	-	-	-	-
全体(581)	45%	19%	16%	18%	1%

年代 × 性別

	男性	女性	答えない
18～29歳(55)	49%	49%	2%
30代(69)	41%	58%	1%
40代(83)	45%	53%	2%
50代(117)	46%	52%	2%
60代(88)	50%	50%	-
70代(119)	48%	52%	-
80歳以上(49)	27%	73%	-
未回答(1)	-	-	100%
全体(581)	45%	54%	1%

性別・年代 × F3 最終学歴

	中学校(旧制 高等小含む)	高校(旧制中 学含む)	高専・短大・専 修学校	大学(旧制高 専含む)	大学院(修 士・博士)	わからない
男性(260)	2%	26%	18%	48%	5%	0%
女性(314)	6%	36%	28%	28%	1%	-
答えない(7)	-	29%	-	43%	14%	-
18～29歳(55)	-	13%	15%	69%	4%	-
30代(69)	1%	23%	23%	48%	4%	-
40代(83)	2%	23%	31%	41%	2%	-
50代(117)	1%	27%	31%	36%	5%	-
60代(88)	2%	24%	32%	40%	2%	-
70代(119)	8%	53%	13%	24%	2%	-
80歳以上(49)	16%	53%	12%	16%	-	2%
未回答(1)	-	-	-	-	-	-
全体(581)	4%	32%	23%	38%	3%	0%

性別・年代 × F4 さいたま市在住年数

	1年未満	2～3年 未満	4年～10年 未満	10年～20年 未満	20年以上
男性(260)	1%	7%	14%	11%	67%
女性(314)	1%	2%	9%	16%	72%
答えない(7)	-	-	14%	57%	29%
18～29歳(55)	4%	16%	5%	33%	42%
30代(69)	3%	7%	49%	9%	32%
40代(83)	-	7%	17%	35%	41%
50代(117)	-	3%	7%	14%	77%
60代(88)	1%	1%	6%	5%	88%
70代(119)	-	-	3%	4%	93%
80歳以上(49)	-	-	-	6%	94%
未回答(1)	-	-	-	100%	-
全体(581)	1%	4%	12%	14%	69%

性別・年代 × F5 社会についての情報を何から得ているか

	テレビ	ラジオ	新聞	インターネット [LINE・ Twitter(ツイ ッター)なども含 む]	家族や友人 からの話	その他
男性(260)	40%	2%	13%	40%	1%	-
女性(314)	58%	2%	7%	24%	1%	1%
答えない(7)	29%	14%	-	57%	-	-
18～29歳(55)	27%	-	-	69%	2%	-
30代(69)	32%	3%	-	52%	-	-
40代(83)	33%	2%	4%	52%	2%	-
50代(117)	53%	2%	5%	32%	-	-
60代(88)	70%	1%	5%	19%	-	1%
70代(119)	55%	3%	26%	8%	2%	1%
80歳以上(49)	65%	-	27%	-	-	2%
未回答(1)	-	-	-	100%	-	-
全体(581)	49%	2%	10%	31%	1%	1%

性別・年代 × F6 社会や政治のニュースを見る際、どのサイトを利用しているか

	Twitter	LINEニュース	YouTube内のニュース動画	ニュースアプリ (Yahoo! ニュース、スマートニュース、グノシーなど)	新聞社の動画ニュースサイト (各社のサイトや NewsVideo など)	テレビ局の動画ニュースサイト	動画配信サービス (Hulu、Gyao! など)	その他
男性(260)	13%	13%	13%	66%	14%	9%	1%	7%
女性(314)	11%	31%	5%	52%	4%	8%	-	11%
答えない(7)	29%	-	-	71%	-	29%	-	-
18～29歳(55)	47%	38%	18%	35%	11%	4%	2%	2%
30代(69)	22%	29%	10%	70%	4%	4%	-	1%
40代(83)	12%	25%	7%	82%	7%	6%	-	1%
50代(117)	11%	29%	8%	74%	10%	5%	1%	3%
60代(88)	5%	16%	7%	72%	12%	11%	-	9%
70代(119)	-	13%	8%	39%	10%	14%	1%	18%
80歳以上(49)	2%	8%	2%	12%	2%	18%	-	35%
未回答(1)	-	-	-	100%	-	-	-	-
全体(581)	12%	22%	8%	58%	9%	9%	1%	9%

性別・年代 × F7 家庭用の固定電話があるか

	ある	ない
男性(260)	69%	30%
女性(314)	75%	25%
答えない(7)	43%	57%
18～29歳(55)	55%	45%
30代(69)	14%	86%
40代(83)	63%	37%
50代(117)	85%	15%
60代(88)	89%	11%
70代(119)	87%	12%
80歳以上(49)	94%	6%
未回答(1)	-	100%
全体(581)	72%	28%

性別・年代 × F8 スマートフォンを所持しているか

	はい	いいえ
男性(260)	90%	10%
女性(314)	87%	12%
答えない(7)	100%	-
18～29歳(55)	100%	-
30代(69)	97%	3%
40代(83)	99%	1%
50代(117)	98%	2%
60代(88)	91%	9%
70代(119)	76%	22%
80歳以上(49)	47%	51%
未回答(1)	100%	-
全体(581)	88%	11%

性別・年代 × F9 電話の利用方法

	固定電話だけを使う	携帯電話だけを使う	両方使うが主に固定電話	両方使うが主に携帯電話	両方とも同じ程度使う	両方とも使わない
男性(260)	6%	46%	11%	34%	3%	1%
女性(314)	6%	35%	13%	39%	5%	1%
答えない(7)	-	71%	-	14%	14%	-
18～29歳(55)	2%	71%	2%	24%	-	2%
30代(69)	-	93%	-	7%	-	-
40代(83)	2%	48%	6%	39%	4%	1%
50代(117)	3%	32%	16%	44%	5%	-
60代(88)	3%	22%	14%	56%	6%	-
70代(119)	8%	24%	18%	41%	7%	1%
80歳以上(49)	31%	10%	22%	29%	4%	4%
未回答(1)	-	100%	-	-	-	-
全体(581)	6%	40%	12%	37%	4%	1%